

授業科目	異文化間コミュニケーションⅡ				単位	2		
履修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング	EN21303J		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP5-1			
担当教員	Kristen Maree Sullivan							
授業概要	異文化間コミュニケーションⅠで学んだことを基盤にして、異文化間コミュニケーションⅡでは次の2つのテーマを扱う。授業の前半では、英語を使った異文化間コミュニケーション、特に職場におけるコミュニケーションについて学ぶ。授業の後半では、日本における多文化共生、特に外国にルーツを持つ人たちが直面する問題や、彼ら・彼女らとのコミュニケーションおよび支援について考える。							
学生が達成すべき行動目標	1. 特に職場における英語を使った異文化間コミュニケーションにおける注意点や心構えを理解することができる。その知識を実際のコミュニケーションに応用することができる。 2. 日本に住む外国にルーツを持つ人たちが抱える問題やその支援策について理解し、認識を深めることができる。							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	60	0	40		100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			30		10		40	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)			30		10		40	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)					20		20	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
授業で学んだことをよく理解した上で、他者との実際のコミュニケーションに応用できる。				1. 特に職場における英語を使った異文化コミュニケーションにおける注意点や心構えを理解することができる。 2. 日本に住む外国にルーツを持つ人たちが抱える問題やその支援策について理解し、認識を深めることができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 授業の概要および目標、履修方法などを説明する。			講義		予習・復習: 該当部分の予習・復習		60

	異文化間コミュニケーションを学ぶ意義についても考える。			
2	世界の英語 英語を使ってコミュニケーションをする場合は、相手が英語を母語とする人とは限らない。まずは世界の英語の現状を確認する。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
3	異文化間コミュニケーションにおける誤解・失敗・すれ違い (職場における)異文化間コミュニケーションにおける誤解・失敗・すれ違いの原因となりえる事柄について、ケーススタディを考察しつつ、再確認する。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
4	職場における英語を使った異文化間コミュニケーション1 世界の英語の現況を踏まえながら、日英比較を通して、職場における物事のやり方の違い、注意点などについて、例を用いて考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
5	職場における英語を使った異文化間コミュニケーション2 世界の英語の現況を踏まえながら、日英比較を通して、職場における物事のやり方の違い、注意点などについて、例を用いて考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
6	職場における英語を使った異文化間コミュニケーション3 世界の英語の現況を踏まえながら、日英比較を通して、職場における物事のやり方の違い、注意点などについて、例を用いて考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
7	職場における英語を使った異文化間コミュニケーション4 世界の英語の現況を踏まえながら、日英比較を通して、職場における物事のやり方の違い、注意点などについて、例を用いて考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
8	移民と日本について 日本の移民の受け入れ状況について確認する。外国にルーツを持つ人たちがどのくらい日本にいて、どのような人たちが日本に住んでいるのかについて確認する。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
9	多文化共生社会について1 多文化共生とは何か。日本における多文化共生の現状、課題、取組み等について確認する。日本に住む外国にルーツを持つ人たちはどのような問題に直面するかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
10	多文化共生社会について2 多文化共生とは何か。日本における多文化共生の現状、課題、取組み等について確認する。日本に住む外国にルーツを持つ人たちはどのような問題に直面するかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
11	やさしい日本語について やさしい日本語とは何か。やさしい日本語の誕生や形、使用現場などについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
12	外国にルーツを持つ子どもたちについて 外国にルーツを持つ子どもたちの現状や支援策について考察する。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
13	コミュニティ通訳について	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60

	コミュニティ通訳とは何か。現状はどうなっているのか。可能であれば、仕事としてコミュニティ通訳を行っている方から直接話を聞く機会を設ける。			
14	多文化共生社会に必要なことは？ 多文化共生社会を実現させるには何が 필요한のか。 授業で学んだことを踏まえて、みんなで考えよう。	講義、演習	予習・復習：該当部分の予習・復習	60
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	想像する力、言語および社会に対する興味関心。			
テキスト	適宜資料を配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	授業中に指示します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習の内容については授業で指示するので、必ず行うこと。また、参考資料を紹介するので、積極的に読みましょう。</li> <li>2. 異文化理解・異文化間コミュニケーション能力を成長させるには、振り返ることがとても重要です。授業内容、授業内容と自分、授業内容と自分が住んでいる社会について振り返る習慣を身に付けましょう。</li> <li>3. 授業内容に対する理解を深めるには、幅広い知識、問題意識を持つことも重要です。日ごろから新聞を読み、問題意識を持ちましょう。</li> </ol>			

達成度評価に関するコメント	前半のテーマについてのレポート(30%)、後半のテーマについてのレポート(30%)、振り返りシート(40%)により評価します。
---------------	---